



よこはま新港合同庁舎 (13頁)



第 235 号

「よこはま新港」

旧庁舎回顧



関東地方更生保護委員会  
委員長  
大場 玲子

平成二二年四月一日のことは生涯  
忘れることはありません。なにしろ、  
その日の午前中に異動辞令をもらい、  
生まれて初めて横浜保護観察所とい  
う現場の管理職になったのです。

赤煉瓦造りが美しい馬車道の駅に  
降り立ち、海のおいのする方向へ。

趣深い万国橋を渡りつつ、左手に  
は摩天楼のようなホテル群、正面に  
は小粋なワールドポーターズ、右側  
には赤レンガ倉庫群、ガイドブック  
を切り取ったようなきらめく風景が  
広がる中に、その建物はありました、  
旧庁舎が！たまさか、通りすがりの  
観光客の「あの古くてくたびれた建  
物は何？」という会話が耳に入って  
くる始末です。

この日から始まった二年間は、大  
げさではなく疾風怒濤、悪戦苦闘の  
日々でした（役所の自転車を漕いで、  
日本三大下町「寿町」へ通ったの  
も得がたい経験です。簡易宿泊所の  
一泊二千円の部屋に足を踏み入れた  
時の臭いや足の裏に感じた湿気も。）

「誰ひとり取りのこさない」という  
志は、実践の場で取り組んでいこう

とするとき、いつも困難に直面しま  
す。更生保護での出会いのきっかけ  
は犯罪や非行をした人たちとの順風  
満帆でない人生との出会いですから  
けれど、そこにあるのは、いつも保  
護司の方々から助けられ、教えられ  
た思い出ばかりです。

人口九百万を超える大・神奈川県、  
その更生保護を支えてくださってい  
る皆さまに感謝してもしきれません。

さて、本年六月、長かった仮住ま  
いから入居した新庁舎はウォーター  
フロントの高級ホテルかと思いがう  
ような立派な建物になりました。こ  
れからは「あの新しく立派な建物  
は何？」という会話が聞こえてくる  
かもしれません。

いつの時代になっても、どんな庁  
舎になっても、地域に住まう善意の  
方々、そこに根付き、町を大事に思い、  
丁寧に社会活動の営みを続けておら  
れる方々こそが地域の力です。

引き続き、皆さま方のお力添えを  
心からよろしくお願い申し上げます。